



2024年3月期 第3四半期決算

2024年01月31日

連結損益計算書の概要

主要取引先の商流変更の影響で前年同期比で減収・減益となったが、売上高、各段階利益ともに当初計画の想定通りに進捗

(単位:百万円)	22/12期 累計	23/12期 累計	増減(△印減)	
			差異	比率
売上高	175,039	140,373	△ 34,666	△19.8%
売上総利益	24,955	20,627	△ 4,328	△17.3%
営業利益	10,982	6,338	△ 4,644	△42.3%
経常利益	10,619	5,943	△ 4,676	△44.0%
四半期純利益	7,470	4,008	△ 3,462	△46.3%
(包括利益)	8,178	4,807	△ 3,371	△41.2%
1株当たり純利益	392.07円	214.13円	△ 177.94	—

《当期業績の概要》

◇売上高：大手半導体メーカー製品の商流変更の影響により減収

◇売上総利益：売上減少に伴う利益減少も、低収益性事業の終了や電子・電気機器の伸長により利益率は改善(前期3Q 14.3% ⇒ 当期3Q 14.7%)

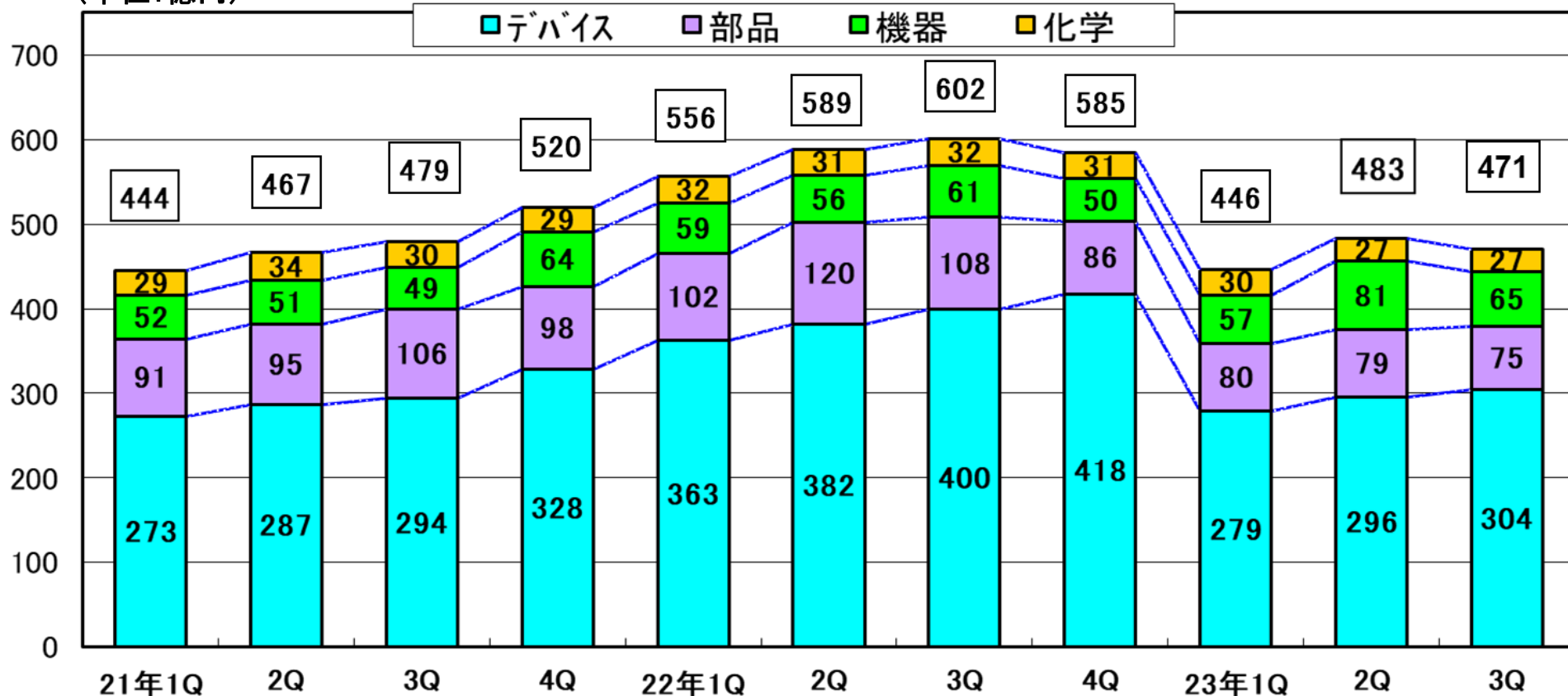
◇営業利益：売上総利益の減少と販管費の増加(対前期3Q比+3億円強)により減益

◇経常利益：為替ヘッジコストの上昇により為替差損5億円を計上

分野別連結売上高の四半期推移

- ◆ デバイス：商流変更の影響や民生機器向け中国市場低迷も、車載用途ICは販売堅調
- ◆ 部品：中国の景気回復の遅れにより民生機器、モバイル向けコネクタ類が減少
- ◆ 機器：真空・理化学関連とPCB関連は23年2Qに前倒しも、引き続き3Qも堅調
- ◆ 化学：石油・石化向け工業薬品は堅調も、化粧品原料は23年2Q以降需要低迷

(単位:億円)



セグメント情報の概要

電子部品事業と工業薬品事業が商流変更や市況の変化の影響を受ける中、電子・電気機器事業は増収で推移

(単位:百万円)		22/12期	23/12期	増減
電子部品	売上高	147,492	111,350	△ 36,142
	セグメント利益	8,630	4,760	△ 3,870
電子・電気機器	売上高	17,689	20,264	2,575
	セグメント利益	1,728	1,466	△ 262
工業薬品	売上高	9,479	8,425	△ 1,054
	セグメント利益	907	162	△ 745
その他	売上高	935	837	△ 98
	セグメント利益	200	4	△ 196
合計	売上高	175,597	140,877	△ 34,720
	セグメント利益	11,467	6,394	△ 5,073

《セグメント情報の概要》

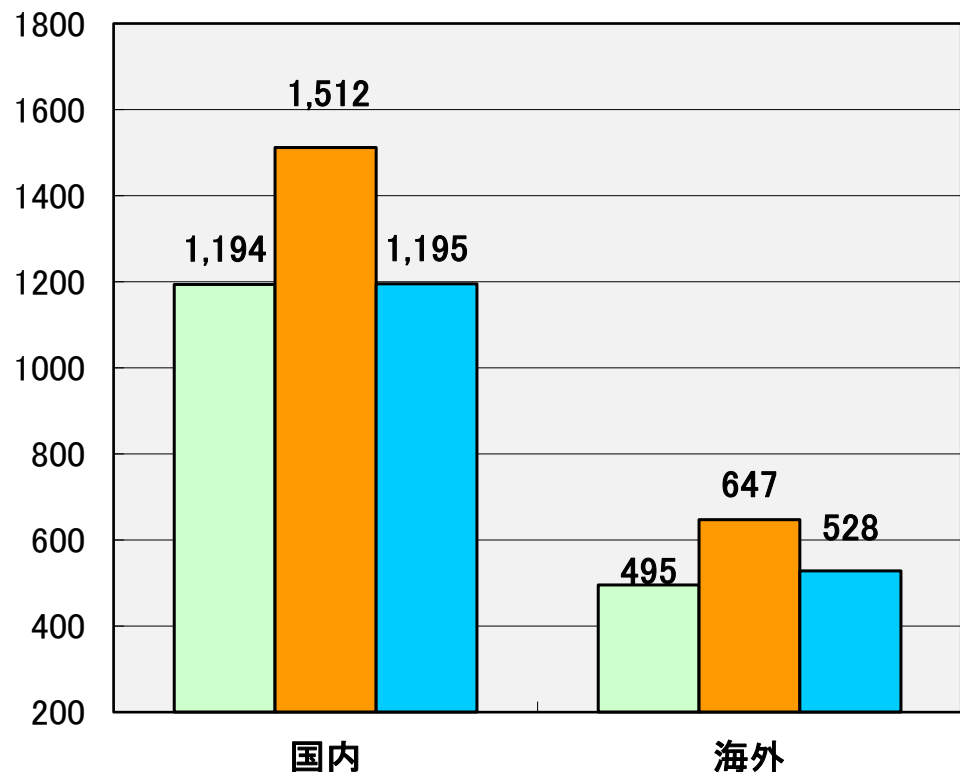
◆電子部品：商流変更、中国市場の低迷、為替影響による利益押し上げ効果の減少等により、減収・減益

◆電子・電気機器：真空機器とPCB関連の販売伸長により増収も、次世代装置開発費用の増加により減益

◆工業薬品：化粧品原料の販売減少により、減収・減益

※1. 売上高はセグメント間内部取引消去前（同一セグメント内取引は相殺済）の金額

(単位: 億円) 売上高(単純合算)



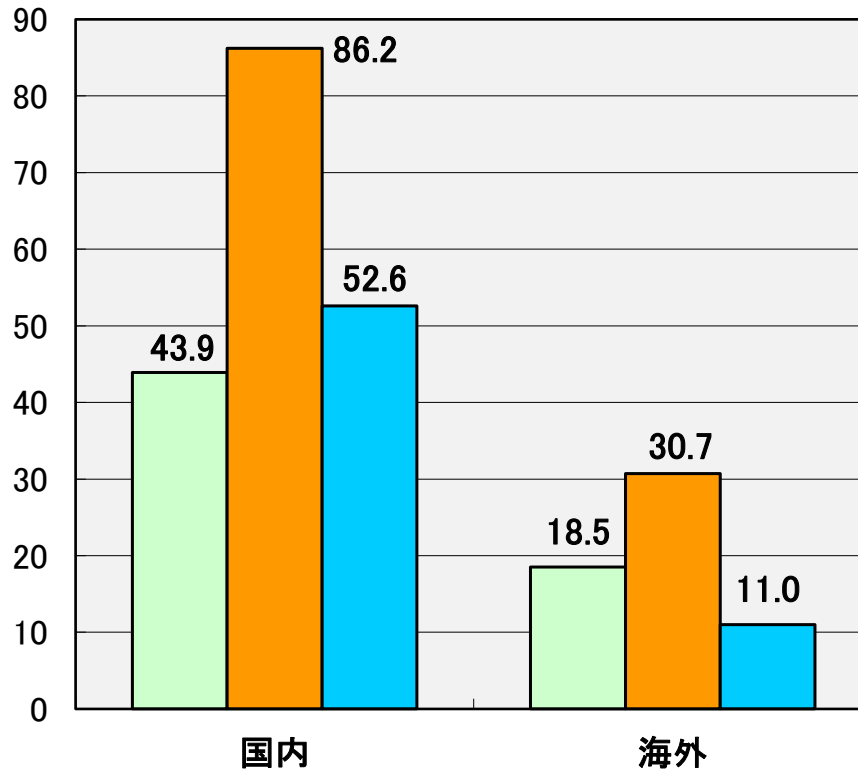
国内(伯東+連結子会社2社)

伯東、モルテック、HAL

海外(連結子会社9社):

伯東香港、上海、台湾、シンガポール、タイランド、他4社

(単位: 億円) 営業利益



□ 22/3期3Q実績

■ 23/3期3Q実績

■ 24/3期3Q実績

連結貸借対照表

資金負担の大きな商流が後任代理店へ移管された結果、運転資本と有利子負債が圧縮
現預金残高の見直しや政策保有株式の縮減により、バランスシートをスリム化

(単位:百万円)	23/3期	23/12期	増減 (△印減)
総資産	145,900	137,528	△ 8,372
内: 現預金	16,751	16,280	△ 471
内: 売上債権	58,853	47,624	△ 11,229
内: たな卸資産	47,973	52,213	4,240
内: 投資有価証券	9,288	8,522	△ 766
総負債	82,036	74,339	△ 7,697
内: 仕入債務	26,569	24,046	△ 2,523
内: 有利子負債	42,085	40,038	△ 2,047
純資産	63,863	63,188	△ 675
自己資本比率	43.8%	45.9%	—

《主な増減理由》

- ◆ 現預金：連結CF参照
- ◆ 売上債権：商流変更に伴う移管在庫に係る債権の回収により減少
- ◆ 棚卸資産：半導体需給緩和に伴う仕入増により増加
- ◆ 投資有価証券：保有株式の売却により減少
- ◆ 有利子負債：運転資本圧縮に伴う借入金減少
- ◆ 純資産：利益剰余金の減少(四半期純利益+40億円、配当△56億円)、為替換算調整勘定の増加

連結キャッシュ・フロー

資金負担の大きな商流が後任代理店へ移管された結果、営業CFが大幅に改善
政策保有株式の売却収入により、有利子負債も圧縮

(単位:百万円)	22/12期	23/12期	増減 (△印減)
営業キャッシュ・フロー	△ 13,403	6,096	19,499
投資キャッシュ・フロー	△ 398	782	1,180
財務キャッシュ・フロー	11,608	△ 7,687	△ 19,295
換算差額	427	336	△ 91
現金・現金同等物の 増減額	△ 1,765	△ 470	1,295

現金・現金同等物の 四半期末残高	16,854	16,280	△ 574
---------------------	--------	--------	-------

《今期の主な内訳》

◆営業CF：売上債権の減少+119億円、棚卸資産の増加△36億円、仕入債務の減少△27億円

◆投資CF：投資有価証券の売却収入+17億円、固定資産の取得支出△9億円

◆財務CF：借入金の返済(純額)△21億円、配当金の支払△55億円

2024年3月期 通期業績予想

直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

(単位:百万円)	23/3期 通期実績	24/3期 通期予想	増減	
売上高	233,624	190,000	△43,624	△18.7%
売上総利益	32,379	27,700	△4,679	△14.4%
営業利益	12,711	8,000	△4,711	△37.1%
経常利益	12,048	7,600	△4,448	△36.9%
当期純利益	8,929	5,400	△3,529	△39.5%
EPS	470.52	288.87	△181.65円	—
ROE	14.2%	8.5%	△5.7P	—

- ◆ 電子部品事業において、車載分野では計画を上回って推移しているものの、民生機器をはじめとする他の分野では市況の回復に遅れが見られること等により、2023年4月28日に公表しました通期連結業績予想から変更はありません。

配当の状況

直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

基準日	1株当たり配当金						配当金 総額 (年間)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第2 四半期末		期末		年間				
2022年3月期	円	銭	円	銭	円	銭	百万円	%	%
2022年3月期	60	00	100	00	160	00	3,182	64.4	5.4
2023年3月期	120	00	160	00	280	00	5,292	59.5	8.5
2024年3月期(予想)	140	00	140	00	280	00	—	96.9	—

- ◆ 現中期経営計画期間中(2022年3月期～2025年3月期)は、配当と自己株式の取得により、総還元性向100%を目標とする株主還元を実施する方針です。

本資料にて記載されているデータ及び将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により変化する可能性があります。従いまして、本資料は記載された目標・予想の達成及び将来の業績を保証するものではありません。

< IRに関するお問合せ先 >

経営企画部 tel.03-3225-8931